

令和5年度第4回三鷹市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

- 1 日時 令和6年2月6日（火）午後6時30分～午後8時
- 2 会場 教育センター3階 大研修室
- 3 議題 (1) 三鷹市子ども総合計画（仮称）の策定について
(2) 令和6年度開設予定保育施設の利用定員について
(3) 子ども政策部の組織改正について
(4) その他
- 4 出席委員 山本 真実（会長）
(12名) 井口 眞美 段谷 ゆり子 岩崎 泉 市川 ルミ
五島 弘子 市川 紀恵 野元 麻美 飯野 有希
師橋 千晴 小林 七子 宮崎 祐輔
- 5 行政 子ども政策部長 秋山 慎一
(事務局) 子ども政策部調整担当部長・子ども育成課長 清水 利昭
児童青少年課長 梶田 秀和
子育て支援課長 田中 通世
子ども発達支援課長 高橋 淳子
東多世代交流センター担当課長 和田 麻子
西多世代交流センター担当課長 丸山 尚
保育園管理運営担当課長 池沢 美栄
野崎保育園担当課長 岩崎 啓子
子ども家庭支援センター担当課長 香川 稚子
健康福祉部保健医療担当部長・健康推進課長 近藤 さやか
教育部調整担当部長 松永 透
企画経営課長 丸山 真明
子ども育成課 寫根 毅晴
子育て支援課 本村 建二郎
児童青少年課 長瀬 雅之 中島 寛人 木村 彩
- 6 傍聴人数 1人

1 開会（午後6時30分）

2 議事

【事務局から三鷹市子ども総合計画（仮称）の策定について説明】

【会長】ただいま、事務局より、「三鷹市子ども総合計画（仮称）」ですが、こちらの策定についてということで御説明をいただきました。

では、少しこの件につきまして御意見を頂戴したいと思います。子ども・子育て会議でこの計画を策定する作業を行っていくということです。これまでどおりというか、これまでもやってきたものを、いろいろ、既にこれらの計画を考えながらやってきた部分も多く入っていたと思いますけれども、また子供を総合的に三鷹でどういうふうと考えていくかという視点をさらに強めながら、こども家庭庁の意見なども含めて見直していく作業ということだと思います。今の御説明につきまして、いかがでしょうか。

幾つもの、また変わるたびに計画が出されているので、長く関わってこられている方は、私もそうですけど、またかという気も若干しますが、できる限りよいものになるように、一体化して、せっかくあるものを生かしながら、そしてまた新しい視点を入れて、今の三鷹の実情に合うように変えていければと思いますけれども、どうでしょうか。

今後の策定体制もそうですし、今新しい視点として、5番のところで、今まで私たちも入れていたところ、ヤングケアラーのことなんかも、今回ニーズ調査でも意見をいただいたと思いますし、権利擁護の部分などもありました。貧困もあったと思いますが、またそこを多分項目出しをして、少し強調した形で作るということとか、あとこども家庭センターというものが出されています。三鷹は三鷹でのやり方で今ある包括支援を継続していくと思いますが、そういったところの在り方みたいな、ネットワークを新たに位置づけるのか、多分新しい切り口でのまとめを入れた計画ということになるのかなと思います。いかがでしょうか。何かありますか。

実際は、このままニーズ調査の結果で新しい何かが出てくるかもしれないので、またそこを見て入れるというやり方もありますので、今は何とも言えないかもしれないですね。三鷹は、前からネットワークの視点を大事にずっと横断的にやってきたという取組が積み重なっていますので、その部分は大事にしながら個人のニーズを取り上げていきたいと

思いますけれども、いかがでしょう。特によろしいでしょうか。

今日、御意見をいただく場がまだありますけれども、併せて何かありましたら。ニーズ調査の結果が見たいというのがありますが、そこはないというところなので。

今資料2で出していただきました基本計画のところでも、令和6年～9年に取り込む事業ということで、既に掲げてありますので、こういった部分も具体的にどのようにしていくかということで、落とし込みながらまた関わってくるとは思いますけれども。

【児童青少年課長】 以前にメールで御案内しまして、御意見を頂戴しまして、その意見につきましては、今度2次案というのができますが、そこに反映するように、私たちも行っておりますので、もしさらにということであれば、ぜひ御意見をと思っております。

【会長】 まだ作業中のいろいろなものがあるので、確定ではないですが、確定でないからこそ今また御意見をいただけるという事務局からの御提案ですので、見ていただいて、こういうところはどこに入っているのかなと思う部分がもしおありでしたら、今ここで少し言っていただくということもできますけれども、いかがでしょうか。よろしいですか。

【委員】 ここで伺っていいのかよく分からないですけれども、低学年からの性教育だったり、命の教育みたいなものも新たに入っていたりしますでしょうか。

【会長】 それは、今度の計画に入れるかどうかということですよ。

【委員】 タブレットの使用が始まって、最近ニュースにもなっていた学校配付のタブレットを使って女子の盗撮をしてしまったというような事件も近くの市であったので、タブレットの使い方を見直しとともに、低学年からの性教育というか、命の教育、プライベートゾーンも含めた自分も他人も大切にするというような視点が必要になってくると考えていますが、そういったところが、権利擁護に入るのか、どこに入るのか分からなかったのです。

調べようと思えば、多分子供たちのほうがどんどん調べていってしまっ、正しい知識じゃないものがどんどん入っていってしまう前に、今までの性教育だともう間に合わないじゃないかなと思っています。小さい頃のほうがずっと入るように思うので、1年生のうちから大事なところがある、人のものも自分のものも大事ということも伝えていく教育を三鷹でも新たに入れてもらえると、知らない間に他人を傷つけてしまったとか、知らない間に犯罪行為になってしまうようなことが防げるのではないかといろんなニュースを見るたびに思います、いかがでしょうか。

【会長】 御回答があれば。これからということだと思います。

【教育部調整担当部長】 子供のほうの部分に入ってくるかどうかというのは、また子ども政策部とも協議させていただきたいと思いますが、教育の具体的な中身ということで、今の御意見というのはいろんなところから出ていることだと思います。様々な形の中で進めていきたいとは考えていますが、今、学校のほうとも、具体的にどのような形で行っていきべきなのかといったことについて少し話をしながら具体化させていければなと思っております。

【会長】 とっても大事なところだと思います。私は、個人的に、性教育についてはきっちり入れるべきだと思って、それは学校教育の中だけではなくて、社会全体で教えていかなければならないと思います。教育委員会で、性教育はいろいろ歴史があるから、規制とかいろいろあって、なかなか難しいのは事実だと思いますが、でも実際には、今御意見があったように、お子さんたちの危険というか、行為が問題になっているし、今後きちんと命を守って生きていくためには必要な知識であると思います。

あと、LGBTとかの多様性とかを教えることに当たっても必要だと思いますし、そういうところで言うと、教育の項目も絶対に必要ですけど、もっと大きなこども計画の中の視点の中に、権利擁護のところでもいいかもしれませんし、子供の人権とか、そういう辺りかもしれませんし、ちょっと考えていければなと私も思っております。御意見ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。

新しい現代的な課題もいろいろあるので、今の御意見のように、どこに入るかなとか、これで扱っていただけるのかしらとか、そういうことでも結構ですので、どうでしょうか。

では、また思いついたところでというところで、また後ほどお時間はありますので御意見をいただきたいと思います。

では、続いて、(2) 令和6年度開設予定保育施設の利用定員について、事務局よりお願いいたします。

【事務局から令和6年度開設予定保育施設の利用定員について説明】

【会長】 ありがとうございます。いよいよ新規はないということで、待機の考え方もいろいろですけども、一応これまでどおり造り続けていく傾向はストップというところでしょうか。ありがとうございました。

この件については、今新規の開設はありませんということですが、何か御意見はありますか。よろしいですか。

では、子ども政策部の組織改正ということで、事務局よりお願いいたします。

【事務局から子ども政策部の組織改正について説明】

【会長】 ありがとうございます。よく分からない人にはまだ分からないかもしれませんが、どうでしょう、御質問あるのかなと思いますが、何か、これはどこに行っちゃったのとか。

もう苦肉の策ですね、本当に。本当にお疲れさまです。

全然変わっていないですが、子育て支援課の手当・医療は分かりますが、相談支援というのは、これは何をしているところですか。上のほうの相談とかとはあまり関わらない、分からない。何をしていますか。

【子育て支援課長】 主にひとり親家庭の支援ですとか、ここには具体的には出てきませんが、女性の相談支援など実際の支援業務に当たっている相談員たちがいる係、その2つを持っておりますので、なかなか全部を網羅した表現には条例上できにくいですが、一応そういった主なところを表記しております。

【会長】 分かりました。じゃ、ここは、先ほどのひとり親とか助成というところの相談をメインに行う係で、いわゆる母子保健絡みとか、発達相談とか、そういう支援は上のところでやるということですね。ここの相談支援ではないということですね。ありがとうございました。

そのほか、いかがですか。

実際動いてみてから、分からなくなっちゃうかもしれないですけど、でも保育支援課が厚くなって、保育の質の向上とか適正化を図っていくというところは、今もやっつけらっしゃる仕事を少し厚くしていこうというところだと思うので、よいことかなと思います。

どうですか。

多分ここにいらっしゃる方はある程度お分かりの方だと思います。でも、多分一般の市民だったら、何が何だか分からないと思います。

【子ども政策部長】 見てぱっと分かる名称にしたいですが、長くなるとか、何とかの幸せ課みたいな名前をつけている自治体もありますけど、そうすると具体の事務が見えな

いとかがあるので、苦慮しながらこういう整理をさせていただいています。

【委員】 今、園長会とかですごく気になっているところが、何かを相談したいときにどこに相談していいのか、保育園を運営している人も迷うところがあるし、組織はすごくこれからいい組織になっていくと思いますが、市民からしてみると、困ったときにどう答えてくれるのかということだと思います。どこに相談をすればいいのかみたいな。だから、私は相談支援係とかいうところが、窓口が1つだったものが、振り分けてもらっていいのかしらというふうな意見もありましたが、その辺が、子育てをしている人からすると、青少年、大きいお子さんお持ちの方もいらっしゃると思いますが、大きくなると不登校の問題とか、小さいときは子育ての問題とか、成長の問題とか、いろいろあると思います。だから、どこに言えば、ぐるぐる回って分からないとか、いろんな話がこの間ありまして、ぜひ今度、子ども家庭センターというものができるので、市民として三鷹市が私たちの子育てを応援してくれるというのが肌で感じられるような、そういう部門ができるといいのかなと思っています。

【会長】 多分、子ども家庭センターというものはできないですね。ものはないです。法律上そう位置づけるというものなので、基本は、ここに今あるそれぞれの子家センと書かれているところに相談をしていくという形になると思いますが、分かりにくいですよ。

【子ども政策部長】 まさに今会長がおっしゃったとおり、要するに建物としての子ども家庭センターを造れば、そこに行けばみたいなことで多分できると思いますが、三鷹市の場合は、この間様々な経緯もございまして、それぞれが立地的に離れていたりということもあります。将来的には一体化したいなと私は思っていますけれども、そういう中で、確かにワンストップの相談の窓口が分かりにくいということは我々も認識しています。今はこういう状態で運営していきますけど、総合相談窓口的なものをしっかり機能としてつくるということは大きな課題だと思っていますので、さきほど御説明した次の計画とか、そういう中にも位置づけをしながら、どういう形でできるかというところを整理していきたいと思っています。御意見ありがとうございました。

【委員】 よろしく願いいたします。

【会長】 ありがとうございました。また市のほうから御案内もいろいろあるかと思えますので、来年、次の、動きましたら、また御意見をいただけたらと思います。

また、この後皆様方から一言ずついただきたいという思いもありますので、まず事務局よりその他ということをお願いいたします。

【児童青少年課長】 今回の会長からのお話がありましたが、本日の会議を持ちまして、現委員の皆様の任期中では最後の会議となります。これまでの委員としての御活動に、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

新たな委員の選出につきましては、別途御相談をさせていただきたいと思っております。来年度は、先ほど御説明しましたとおり、「三鷹市子ども総合計画（仮称）」の策定などを予定しておりますことから、委員の皆様におきましては継続等のお願いをさせていただくこともあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

次の開催につきましては、新たな選出後の委員の皆様により、令和6年5月頃の開催を予定しているところでございます。

私から以上になります。

【会長】 ありがとうございました。

ただいま事務局から御報告がありましたけれども、今の委員の皆様方の任期はこれで最後ということになりますので、今日は一言ずつ、短い時間ではありますが御挨拶を順番にいただければと思っております。

段谷委員から一言ずつということで、皆様に回しますので、どうぞお願いします。

【委員】 三鷹市医師会から来ています斎藤小児科医院の段谷といいます。

なかなか、今回の話もそうですが、非常に難しい話で、私が関わっているのはどこなのかなってこれを見ても考えるぐらいなので、確かに、もうちょっとワンストップになれたらいいのかなとは思いますが、現場としては、我々は保健センターの保健師さんを中心に、地区担当の方と連絡を取りながらやっていけば回っていくという実感があるので、引き続きその辺を、医師会と関係性をよくしてやっていければと思っています。

そういう面では、先ほどあった命の教育とか、性教育とか、性感染症の問題とか、いろいろもう少し広げていかなきゃいけない部分はあるのかなとは思っております。いろいろありがとうございました。

【委員】 学童代表ということで参加させていただいている岩崎です。今6年生になる娘が三鷹で生まれて、ここまで大変だったのは、0歳、1歳、3歳の保育園がないという問題でした。多分、三鷹市の子ども・子育て会議をはじめ、市役所の皆さんの努力で、ここまで毎年保育園・保育室が増え、どんどん待機児童が減ってきて、今お話を聞いて、来年新しい保育園がないというのに、感無量というか、やっとここまで来たという気持ちがあります。ほかの市町村の方からも、三鷹は子育てしやすいまちという評価をいただい

ていると感じていますので、お礼とともにこの後も頑張ってくださいと思います。ありがとうございました。

【委員】 私立園長会の代表で、市川と申します。今のお話を伺って、私どもの保育園は駅から遠い畑の中の一軒家みたいな保育園ですが、待機児童は確かに減りましたし、去年から0歳児の定員割れというのが。ただ、今の状況だと、冬ぐらいですかね、11月ぐらいで、途中入園で埋まってきているので、多分お母さんたちにとってもすごくいいことだと思います。自分のタイミングでは入れるという。4月を待たずに、1年ちゃんと育休を取ってから入れるという意味で、すごくいいのかなと思いつつ、やはり4月1日の段階では、今年も、実はすごく0歳は定員割れしております。二次がこれからあるので、また見学の方もいらっしゃるの、もう少し増えるのかなんて期待をしながら、そうやって途中で入れるというのはすごく大事なことだなと。

ただ、運営する側としては、大変と思いつつ、三鷹市さんは定員未充足というとても素晴らしいことをしてくださっているの、私は、そこは今とてもありがたいなと。そういう状態が続いていくと、お母さんたちにとっても、運営する保育園も落ち着いていけるのかなんていうふうに、理想ですが、でもやはりとても大変なところはいっぱいあると思うので、お互いにいろいろ頭を悩ませながら、これから先、未来を見据えて。

あと、保育園のほうは、待機児はいないですけども、学童のほうは今、私たちも送り出した側としてはすごく心配しています。保育園にずっといた子が、おじいちゃん、おばあちゃんが近くに住んでいるから入れなかったなんて聞くと、でも毎日おじいちゃん、おばあちゃんが家にいるわけじゃないのになんて思いながら、その辺も心に留めながら、またこれからいろいろ見つめていきたいと思います。どうもありがとうございました。

【委員】 私が三鷹に来た頃、20年ぐらい前になりますが、その頃は認証保育所を開いても、5月に開いて、6月で20人ぐらいというか、とにかくお子さんが少なかったです。その後、すごく待機児が増えてまいりまして、認証保育所を2つしていましたが、定員40人のところ毎年40人過ぎて、毎年12人ずつ、0歳児は24人お世話させていただいたりしてきていました。今は、1歳児さんから非常に多くなってきて、今、私の保育園は、一つのほうは0歳児の定員がございませんので、1から8人入りますので、それは皆さん、すごく喜んでくださっている状態になってきています。

私が、小平から三鷹に来まして、三鷹が子育て支援の政策を最新的に取り入れていただいていたので、ひろば事業もしていらっちゃって、ひろば事業のないところからいろんな

事業のある地域に行ったものですから、やはりお子様がひろば事業に慣れているというか、だから、すごく頑張ってくださいている市に来られてよかったなと思っています。

今、何年か前から新しくりぼんもできまして、りぼんも本当によく頑張ってくださいているのは肌で感じております。いろんな連絡がりぼんから来ましたら、りぼんの方が保育園に来て、そっとその子たちの育ちの確認とかをしてくださっていますので、子育て支援自身がすごく充実してきているのはすごく感じています。

ただ、保育の現場で、一番みんなが、どこの保育園も大変に思っているのは、個性的な方が非常に増えてきていて、集団生活が苦手な方が増えてきているということだと思います。そこにつきましても、一応量は何とか準備できましたので、今度は質の方向へということになりましたら、先ほど市川先生もおっしゃっていたような未充足の、お子さんがいらっしゃるのとこの経営を支えていただかないと、よい保育を継続いたしかねますので、その辺のところをよろしくお願ひしたいと思っています。

いつも、りぼんとかができ、いろんなところができてきていまして、これからもその中を、私たちが本当に小さな力ですけど、一緒に頑張っていけたらと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

【委員】 私、学童保育所で施設リーダーをさせていただいております市川と申します。よろしくお願ひいたします。

私の学童保育所では、まさにこの時期、4年生以降の生活について、放課後の心配をされる保護者の方が非常に多かったですが、施策として行われております地域子どもクラブの拡充ということで、全日開催をしていただいている小学校が増えている中で、保護者の方からは、4年生以降の放課後の生活に見通しが立ってきているようで、保護者の方からの御相談は少しずつ減っていることを日々感じております。

また、逆に保育園と学童保育所の接続の部分で、恐らく保育園から小学校に関しましては就学支援シートなどで接続がありますが、学童保育所ではなかなか接続というものが仕組みとしてないので、こちらでも保育園には、入所前には聞き取りなどもさせていただいていますが、もしそういったものを施策の中で、学童が小学校より先に、4月1日から児童を受け入れるということもございますので、ぜひそちらの施策の部分でお考えいただけたらと思います。

いろいろと三鷹市さんは非常に先進的に子育て支援に取り組んでいらっしゃるのので、日々私も勉強になりますし、また保護者の皆様にも安心していただけるように、相談等に

つきましても、保護者の方から受けたものをしっかりお伝えできるような形にしていけたらなと思います。ありがとうございます。

【委員】 三鷹市助産師会の野元です。ありがとうございます。

先ほど五島委員からもお話があったところで、どこに相談したらいいか迷うという話は、私も赤ちゃん訪問に伺ったときに、生まれた赤ちゃんのことはいいけれども、兄弟の小学生の上の子の相談をスクールカウンセラーさんにはしているけども、ほかにもっと相談したいときにはどこに相談したらいいのでしょうかという質問を受けたことがあったなと思い出しました。そのときは、保健センターかりぼんさんで相談することができますよとお伝えはして、でも、小学校からも相談先の紙はもらって帰ってきているとは思いますが、いざ聞いてみようと思ったときになかなか見つけられなかったりするのかなというのを思い出しました。

助産師会としては、先ほどお話しした命の教育が、低学年から、できるだけ早いとき、幼稚園でもいいとか最近の思ったりしています。絵本も出ていたり、最近保護者の方のニーズも多いのか、本屋さんにもそういったコーナーもできるぐらいニーズはあると思っていて、親から子にできればいいけど、なかなか家庭内ですするというのは難しかったりするので、学校内で早いうちからできたらいいなと思います。

あと、今一部の中学校、受験が終わった中3向けの具体的な性教育が、まだ2校ぐらいかなと思いますが、それが全部の中学校に広がってくればいいなと思っています。

個人的には、私も三鷹で子育てして、私は幼稚園に通わせていたので、のびのびひろば、すくすくひろば、一時保育、ファミサポ、息子も今日も5時まで西児童館にお世話になり、そして今一緒に来て地下の託児にお世話になっているぐらい、学校が終わったら放課後クラブにお世話になり、もう三鷹のいろんなサービスをフルに利用させてもらって。

上の子は中3になるので、いよいよあの性教育を受けられると思って、感慨深く思っているところです。見学に行って、こんなに具体的な話を中3生が聞けるっていいなと、一保護者としても助産師としても思ったりするので、これが全部の三鷹の中学校に広がればいいなと思っております。ありがとうございました。

【委員】 三鷹青年会議所の代表の宮崎と申します。この期間、大変勉強になりました。ありがとうございました。

私も、出身は三鷹で育って、そのまま社会人になるまででしたが、三鷹で育ったところに恩返しをしていきたいと思った原点は、やっぱり家庭の部分での支援があったのかな

というところを思った次第です。

我々の組織も、40歳までの青年が所属していますが、三鷹でもともと育って、就職して、また帰ってくるみたいな、そういうメンバーが非常に多いものですから、そういったところを踏まえますと、やっぱり子育ての部分の支援をしていただいた結果、そういった感じで戻ってくる人が増えているのかなと感じている次第です。

そういったメンバーで、三鷹のために何かをしたいと言ってくれる人が非常に多いので、こういった場で、感謝とともに、今後ともそういった人が育っていくような三鷹にしていただけたらなと思っております。青年会議所としても、何か言っていきたいことはお伝えさせていただきますので、今後ともよろしく願いいたします。

【委員】 NPO法人子育てコンビニの小林です。2年間お世話になりました。

私たちは、8年前からホームスタートというものを始めまして、家庭訪問型の子育て支援ですけれども、ボランティアの養成講座をやって、SOSが来たらボランティアさんを必要とする家庭に行くというような活動です。その講座に、市の方に講師として来ていただいています。当初は、三鷹市のサイト子育てねっと・子育てコンビニをやっていたときに知り合った方々をお願いして講座に来ていただきましたが、そのときは、今思い出すとむちゃ振りをしたというか、でも快く講座を引き受けていただいて、4コマぐらいですかね、今は正式に子ども政策部に依頼をして講師として来ていただくという形になって、どのセクションが講座にふさわしいかということも何も分からないのに協力していただいたことを本当に感謝しております。

今、ボランティアさんが60名ぐらいになっていまして、利用された方も200件以上になっていまして、今年も利用が去年よりも倍ぐらいになっている状態で、市民の力で出来ることは、限界がありますが、市役所の方と協力をお互いにしながら、少しでも孤独に育児をしていらっしゃる家庭の支援になればと思います。これからもよろしく願いいたします。

【委員】 お世話になりました。私は、地域子どもクラブの地域コーディネーターとして最初関わっていましたが、今は地域の立場という、青少年育成課活動というか、そのところの第三地区委員会ということで出ています。第三小学校のほうで、いろんな、学校3部制の2部というところに関わっていて、今回は朝の校庭開放も携わったりとかして、20年ぐらいこれをやっていますが、同じ1年ということが全くなくて、どんどん三鷹市がすごく向上しているというか、子育てのところがすごくいいですね。新たな問題が出て、

今度はそれをまた解決すべく次のステップに行ってとあって、追いつくのがすごく大変で、その環境でどうしたらいいかなと考えて。だから、今は拡充している地域子どもクラブで、学童保育と同じように——同じと言ったら学童さんには申し訳ないですけども、1年生から6年生までのお子さんたちの居場所ということでやっているということ。

あとは、小1、中1、そして学童さんの3年から4年、そこはすごく大事ななところで、今回新たに地域の活動の中で、春に1回イベントを開催するところに、今度新生保護者説明会のときに、新たな取組ですということで、学校施設でイベントをやる。地域団体がいっぱい関わってやるということで、新しくお子さんを学校に入れるという保護者の不安と、あとお子さんが施設を見られるいい機会だと思うので、声をかけたら、今24人ぐらいかな、応募があつて。だから、ちょっとした今までやっていないこと、新しいことで学校の様子が垣間見られて、地域の人たちがどのように子供たちと関わりながらイベントをやっているかというのを感じ取ってもらって、少しでも不安解消できたらなど。

あとは、学童さんのほうで、3年から4年になるところがやっぱり不安だから、今度3年生を地域子どもクラブのほうに交流ということでやりたいという新たな試みが、うちは社協さんですけども、提案があつて、連携事業ができることが、とてもうれしく思っています。なので、新しいことを少しずつ取り入れて、子供の育ちのところにまた貢献できたらいいなと思っています。今後とも、どうぞ、皆さんも御活躍、御健康でいてください。ありがとうございました。

【委員】 お世話になりました。ありがとうございます。私は、今年高山小学校のPTA会長をやらせていただいております飯野と申します。PTA連合会のほうから派遣させていただいて、参加させていただきました。今回、初めてで、分からない言葉ばかりでしたが、知らないことも多くて、とても勉強になりました。

私自身は、三鷹で生まれて、育っています。高山小学校を出て、三中を出てということで、地元はずっと住んでいますが、私が小さいときに母は働いていて、共働きでしたが、その頃は保育園に入れなくて、私が入れなかったがために共同保育所という、今はないんですが、保育園ではない地域の人でやっているようなところに入って、そこでバザーとかをして、その当時の人たちが一生懸命それをまた保育園にしてという作業をしていたというのを聞いて育っています。

私は、中2の娘と小6の息子がいますが、中2の子のときは保育園がまだ足りないときで、入れなくて、何とか待って幼稚園に入れたという経緯がありました。下の子のときは、

入れるようにはなっていましたが、上の子が保育園に入れなかったので、2人一緒に入れられなければ働けないという環境があったので、結局働けずに幼稚園に2人とも入れて、小学校に入ってから働いたという経緯がありました。今は、待機児童もゼロでということで、とても目まぐるしく、ここ10年ぐらいですが、変わっているなということを実感しています。

今、PTAの活動をしていて、今年も子供たち、働いている母親もとても多いですが、学校に関しても朝開放、もっと早く学校に来ていいよということを今年からやっていただいています、いろんなことでとても変わってきている。三鷹市が、教育、子ども・子育てに力を入れていただいているということが今年はとてもよく分かりました。

ただ、私はPTA会長になるまではそういうことはあまり知れていなかったもので、一般の方は知らないこともたくさんあるでしょうし、自分から広報紙とかで探していけば多分見つかるでしょうが、そういうことがなかなかできない忙しい日々を過ごしていると情報が得られないのかなというのは実感しております。

今、思春期の子育てに悩んでいる最中ですが、窓口がどこなのかということとか、困ったときに助けてってどこに言っていいだろうという。学校でも、校長先生に言っていいのか、副校長先生に言っていいのか、先生に言っていいのかということ、保護者の方からどこに言っていいか分からないという声をいただきます。三鷹市のほうでも発信はしていると思いますが、これからも続けて発信をしていって、子育てをする親を応援していただきたいと思います。ありがとうございました。

【委員】 実践女子大学に勤めております井口です。本日の御報告を聞きまして、三鷹の中で子供を取り巻く大人たちの計画と、そして組織というのが新たに動き出すので、しっかりとできた計画や組織が現場の中でどう実践されていくのかが楽しみだなと思ってお話を伺っておりました。

今、「こどもまんなか」という言葉が始終飛び交っておりまして、私も大学で学生に「こどもまんなか」というのを伝えようと思って、パソコンでイラストを書こうと思いました。子供を取り巻く大人たちが手をつないで、真ん中に子供を置きましたけれども、かごめかごめの真ん中のお便所みたいな、これでいいのかなと思って、こども家庭庁のロゴマークを見れば分かるに違いないと思って見たら、カラフルな平仮名で「こどもまんなか」って書いてあります。何の意味もないなと思いながら、「こどもまんなか」ってどういう意味かと思ったときに、子供が真ん中ではなくて、きつと手をつないでいる中の一つに子供も一

緒に手をつないでいて、真ん中にあるのは子供の思いであったり、また子供のことを考える大人たちの願いであったり、あるいは時に子供を取り巻く背景的な課題であったり、願いや課題というものがきつと真ん中であって、子供って一緒に手をつないでいるのではないということ、イメージですけど、つらつらと考えた次第です。

今皆様のお話を伺っても、私は、いつも申し上げますが日野で仕事をしておりまして、追いつけ追い越せと思いながらお話を伺っていますが、それぞれの皆さんが本当に子供たちのことを考えてされている三鷹の保育、そして子育て支援がますます繁栄して、素晴らしい市になっていくこと、そして子供たちが立派に育っていくことを期待しております。ありがとうございました。

【会長】 皆様、本当にお世話になりました。私も、長く三鷹に関わってきてしまいました。最初に関わったのは30年前なので、多分皆様方職員の方が入られて、最初の頃は私もまだ20代でしたけど、一緒にやっていたかなと思います。

常に、私は三鷹とともに研究を続けてこられました。そして、三鷹の皆さんとこうやってお話をすることが本当に大事でした。三鷹の方は、職員の方も市の方もすごく一生懸命で、今師橋委員もおっしゃいましたが、新しいことを市民の方がやろうとされていることを基本止めないというか、やっていただいて、それをちゃんと引き上げようとする努力をされてきている方じゃないのかなとずっと思っております。

私、幾つもこういう自治体の計画をやっていますが、最近では三鷹オンリーですけど、三鷹と東京都しか今はやっていませんが、昔は、かつて計画が最盛期だったときは7つぐらいいやっていたんですが、そのときから三鷹市さんは特別で、こういうところでズバズバ言ってもちゃんと笑って、ちゃんと次のときに書いてくれます。ちゃんと入れてくれます。なので、言いがいがあります。ほかのところに行くと、全く、「あれ、この間言ったやつがない」とか言うと、「それは、今回はなくなりました」とか言われます。そういうところではやりたくないの、全部ほかはやめてしまいました。

そういう意味で、三鷹は育ってきてくれたし、そしてまた市民の方がそれを受け止めて、またやったださって、コミュニティ・スクールのことも、昔はなかったことがこんなに今花開いているし、子ども家庭支援センターもそうですよね。最初に私が関わったときは、まだすくすくもできていなかったときでしたから、もうこんなにできているし、ハピネスがあったときから、今発達支援センターがここまで来て、そしてこのネットワークをつかって、今回もまた新たに、国の言うことははいはいとよく聞きながら、三鷹流でやるとい

う。そこのところが、私はとても頼もしいと思っていますし、こうやって皆さんが三鷹はとてもいい子育てを今、していると言ってくださったことが、私も職員の方と同じくうれしく思って聞かせていただきました。関わってきたことが無駄じゃなかったかなと思っています。

そろそろ私も引退かなと思いますけれども、もしこの後も何かお役に立つことがあるのであれば、お力を少しでも、一緒に手を携えてやっていければなと思っていますので、よろしく願いいたします。本当に皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。

ということで、皆様、ありがとうございました。ほかに、御質問と御意見については、今までどおり三鷹のほうにメールなり、電話なり、直接言っていただいてもきちんと受けてくださいますので、ぜひお願いいたします。

今日は、先ほども冒頭にありましたけれども、足元も悪い中ですので、寒いですが、気をつけてお帰りくださいませ。時間としては、市から言われていたのにオーバーしてしまいました。ごめんなさい。皆さん、お気をつけて。では、お世話になりました。

これをもちまして、令和5年度第4回子ども・子育て会議を終了いたします。お疲れさまでした。

— 了 —